

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第151号(2019.10.1)
事務局 川西地区自主防災会

高松市総務局危機管理課

1. 高松市防災合同庁舎(危機管理センター)について

高松市は比較的自然災害が少ないと言われていますが、近年は大雨などによる自然災害が増加傾向にあります。また、今後発生が想定されている南海トラフ大地震は、30年以内の発生確率が70～80%と言われています。このような大規模災害が起きた場合でも、あらゆる情報を集約して分析し、市民の皆様へ、迅速かつ効果的に災害情報や避難情報などを提供することができる「安全・安心のまちづくり」の中核施設として、平成30年5月に、高松市防災合同庁舎(危機管理センター)が完成しました。

庁舎内には、常設の災害対策本部室を備え、危機管理課のほか、市民の救助・救出を担う消防局、ライフラインを担う下水道部や及び香川県広域水道企業団が同じ建物に入ることにより、より一層緊密な連携のもと、迅速かつ的確な災害対応に取り組むことができるようになっています。



高松市防災合同庁舎(危機管理センター)外観

2. 施設の特徴

高松市防災合同庁舎(危機管理センター)は、大規模災害が発生しても、業務を継続することができるよう、災害に強い施設となっています。

建物は鉄骨造の地上8階建てで、建物及び出入口周辺の地盤に対して液状化対策を行っています。また、基礎免震構造を採用しており、建物と基礎の間に免震ピットと呼ばれる空間を設けることで、地震による水平動が建物に直接伝わらず、建物の損傷を防ぐ

ことができる仕組みになっています。

さらに、自立運転にも対応した太陽光発電システムや、72時間運転が可能な自家発電システムも完備しており、停電などが発生した場合にも継続して業務を行うことが可能です。

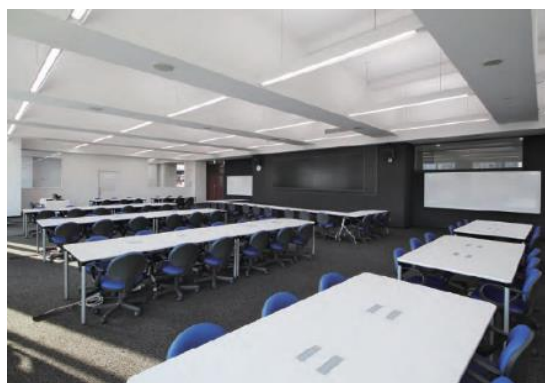
そのほかにも、電力供給や上下水道の途絶リスクを軽減するため、様々な備えを行っています。

電力・通信途絶 リスクの軽減	<ul style="list-style-type: none">・電力の引込みを2重化にし、一方の回線が途絶した場合のバックアップがとれるようにしています。・72時間稼働するオイルタンクを備えた自家用発電設備を設置しています。また、本庁舎のオイルタンクと連携することも可能で、燃料の確保を図っています。・電気室や電話交換機室、サーバー室を建物上階に設置し、万が一の浸水被害に備えています。
上下水道途絶時 のバックアップ	<ul style="list-style-type: none">・庁舎北側に100tの耐震性貯水槽を設置し、約4日間分の飲料水を確保しています。・地下ピットの雑用水槽に、約4日間のトイレ洗浄水を確保しています。・地下ピットの緊急汚水排水槽に、汚水排水を貯留することができます。

2. 常設の災害対策本部室

高松市防災合同庁舎(危機管理センター)の3階には、常設の災害対策本部室があります。これまでは、平常時に会議室として利用している部屋に本部を設置していたため、気象に関する警報(大雨・洪水警報など)が発表されてから、参集した職員が机や椅子の並び替えや電話・インターネットの接続などを行う時間を要していましたが、災害対策本部室を常設とすることで、本部を設置する時間が短縮され、迅速な本部体制が取れるようになりました。

本部設置時においては、本部長の市長をはじめ、関係職員が、災害対策本部室へ参集し、国土交通省や消防局等が設置するライブカメラの映像や、ICTを活用したリアルタイムな水位・潮位等の情報、テレビやインターネットからの情報、住民からの通報や情報提供を基に、被災状況や今後の気象情報を確認しつつ、迅速かつ的確な対応を図っています。



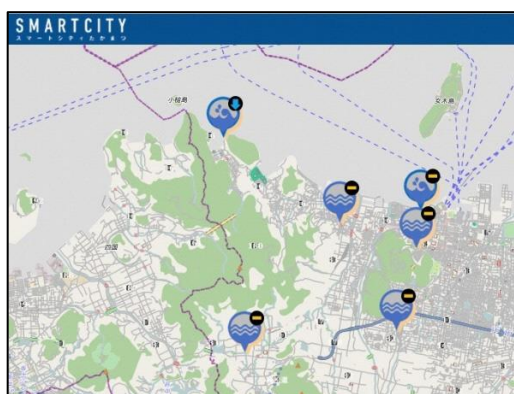
災害対策本部室

3. IoTを活用した災害対応

近年の度重なる集中的な豪雨や、大型台風の発生などに伴う河川の氾濫、高潮など、様々な水害リスクに対する懸念が高まるとともに、今後30年の間に70～80%の確率で発生すると予想されている南海トラフ大地震などの大規模災害における被害状況や避難に関する情報などについて、市民へ迅速かつ的確に提供することが求められています。

これらの課題に対し、高松市では、IoTを活用し、河川や海岸部における水位・潮位の情報や、市道アンダーパスの冠水情報などをリアルタイムに収集・分析することなどによって、早期の災害対策に取り組んでいます。

台風など災害対応の際には、災害対策本部室内において、ライブカメラの映像や気象情報などとともに、市全域の水位・潮位の状況やアンダーパスの冠水情報などを地図(ダッシュボード)上に可視化し、大型モニターに表示することで、関係部署との速やかな情報共有を図りながら、迅速な対応につなげています。



地図(ダッシュボード)



災害対策本部の大型モニター

4. 防災情報発信スペース「たかまつ防災プラザ」

高松市防災合同庁舎(危機管理センター)の1階には、防災情報発信スペース「たかまつ防災プラザ」があり、地域の防災力の向上を図るために、関係機関や大学などと連携し、防災に関する啓発や学習、情報発信を行っています。

災害に対する備えや災害時の行動指針、地域防災の考え方などについて、パネル展示やモニター画像でわかりやすく紹介しているほか、防災グッズの展示や、バーチャルリアリティ(VR)による地震・津波の疑似体験コーナーがあります。

また、おおむね1か月に1回、香川大学から講師をお招きし、気軽に参加できる防災講座として「ぼうさいまちカフェ」を開催しています。

今後も、展示内容を変えながら、様々な情報を発信するためのスペースとしていきたいと考えています。防災合同庁舎にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



防災情報発信スペース「たかまつ防災プラザ」



ぼうさいまちカフェの様子

5. 最後に

高松市防災合同庁舎(危機管理センター)は、市民の皆様の安全・安心を守る防災の中核拠点として誕生しました。今後も、施設を最大限有効活用し、災害から大切な命や財産を守るための防災活動に努めていきたいと思えます。

しかしながら、行政ができる防災活動にも限界はあります。いざという時に大切なことは、地域での助け合いや、一人一人が正しい防災知識を身に付けて、しっかり備えておくことです。

災害に対する正しい知識と備えがあれば、災害そのものをなくすことはできなくても、被害を小さくすることはできます。皆さんも、今一度、「たかまつ防災マップ」などをご覧いただき、お住まいの地域の特徴や、避難所までの道のり、非常時の持ち出し品などについて、御確認くださいませよう願います。

事務局だより

令和元年 10月

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

本年度第2回目の役員会

「かがわ自主ぼう連絡協議会」本年度第2回目の役員会を高松市国分寺町北部コミュニティセンターにおいて9月27日（金）に開催し、シェイクアウトプラスワン訓練の日程調整等を行った。

<本年度のプラスワン訓練>

- ① 11月1日（金）フジグラン丸亀
- ② 11月2日（土）正覚寺（綾川）
- ③ 11月5日（火）白鳥園（東かがわ）
- ④ 11月5日（火）オリーブ荘（高松）
- ⑤ 11月5日（火）まおの里（善通寺）
- ⑥ 11月5日（火）豊浜荘（観音寺）
- ⑦ 11月6日（水）萬象園（丸亀）
- ⑧ 11月7日（木）詫間福祉サービス（三豊）
- ⑨ 11月8日（金）エデンの丘（高松）
- ⑩ 11月9日（土）ヌーベル木太（高松）
- ⑪ 11月10日（日）グループホーム富士（宇多津）
- ⑫ 11月13日（水）とまと園（丸亀）
- ⑬ 11月14日（木）せとうち福祉サービス（三豊）
- ⑭ 11月15日（金）松寿会（坂出）
- ⑮ 11月15日（金）ひもりの里（さぬき）
- ⑯ 11月27日（水）香東園岡本荘（高松）
- ⑰ 日程調整中 朝日園（三木町）
- ⑱ 日程調整中 グループホーム此の苑（高松）
- ⑲ 日程調整中 珠光園（丸亀）

以上、19施設・団体とのシェイクアウトプラスワン訓練を予定。

急坂道や階段使った避難訓練は、絶対に不安になったりケガ等をさせないように万全の備えで臨みたいと思っています。役員会では、このほか「防災・減災の輪」の原稿当番について、再確認を行いました。

編集後記

10月の防災減災の輪は、高松市総務局危機管理課様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。